

別紙様式 2

平成 1 8 年度中学校区小中一貫教育中間報告書

(上 下) 中学校区

平成 1 8 年 4 月 1 日 ~ 9 月 3 0 日

1 実践内容等

日 時	場 所	実践内容等	対 象
4 月 4 日 (火)	上下中学校	校区小中一貫教育連絡協議会 ・平成 1 8 年度研究推進計画について ・合同公開研究会の実施について	・小中校長教頭 職員代表
4 月 1 2 日 (水)	上下中学校	校区小中一貫教育研究推進協議会 ・講演 府中市小中一貫・連携教育と上下中学校区の取り組み - 平成 2 0 年度実施に向けて - 講師 広島大学大学院教授 池野 範男 先生	・小中教職員
4 月 1 2 日 (水)	上下中学校	各部会 ・年度計画	・小中教職員
5 月 8 日 (月)	上下中学校	校区小中一貫教育連絡協議会 ・カリキュラム委員会の進め方について ・合同公開研究会について ・夏季全体研修会について ・芸術鑑賞について	・小中校長教頭 職員代表
5 月 2 4 日 (水)	上下中学校	カリキュラム委員会 (全体)	・小中教職員
6 月 1 3 日 (火)	上下南小学校	カリキュラム委員会 (英語)	・小中教職員
6 月 1 4 日 (水)	上下中学校	教科指導部会 ・指導案交流など	・小中教職員
	上下北小学校	生徒指導部会 ・授業研究、実態交流 ・部活動体験内容検討	・小中教職員

	上下中学校	進路指導部会 ・学習プログラムの検討	・小中教職員
6月19日(月)	上下中学校	カリキュラム委員会(保健体育)	・小中教職員
6月20日(火)	上下中学校	カリキュラム委員会(英語)	・小中教職員
6月27日(火)	上下中学校	カリキュラム委員会(道徳)	・小中教職員
7月12日(水)	上下中学校	カリキュラム委員会(全教科)	・小中教職員
8月9日(水)	学区内の公民館など 上下中学校	ボランティア活動 部活動一日体験 全体研修会 ・講演 小中一貫教育で育てるコミュニケーション能力 講師 池本よ志子さん 部会 ・教科指導部会 ・生徒指導部会 ・進路指導部会	・小中教職員 ・児童生徒
9月13日(水)	上下中学校	カリキュラム委員会(全教科)	・小中教職員

2 成果

<p>全体研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月の全体研修会は、広島大学大学院の池野範男教授の講演を聞き、今年度の小中一貫教育を進める上での視点について研修した。特に教科指導において、どう小中をつなぐかというお話をいただき、今年度進めていく小中一貫のカリキュラム作成に向けたたいへん参考になった。 ・8月の全体研修会は、(株)ディアフォロン代表取締役会長の池本よ志子さんから、コミュニケーション能力をどう育てるか、という視点での講演を聞き、研修を深めた。相手に伝わるように話すにはどういう工夫が必要か、実習を含めた講演で、今後の児童生徒への指導の視点を学ぶことができた。 <p>部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導部会 小中での指導内容の連携や、指導案の書き方などについて協議を深めることが

できつつある。また、小中合同の授業研究により、お互いの授業の手法などを研修することができた。

- ・ 生徒指導部会

道徳の内容について、小中それぞれの授業研究を通して研修を深めることができた。また、合同のボランティア活動や部活動体験などを通して、児童生徒の交流を深めることができた。

- ・ 進路指導部会

総合的な学習の時間の連携について協議し、キャリア教育を進める上で、小中の特性を生かした取り組みの交流ができた。また、小学校2校で進めている英語活動の内容について、連携して進めることができてきた。

カリキュラム委員会

- ・ 国語，社会，算数・数学，理科，音楽，保健体育，英語活動・英語，道徳において、小中の系統性について協議する委員会を設置し、カリキュラムの作成に着手できた。

- ・ 教科によっては、小中の児童生徒と一緒に授業を行うことができる内容を整理したり、実際に検証授業を行ったりすることができた。

かけ橋の日

- ・ 小中の教職員が、お互いの学校の雰囲気や指導方法などを直接感じ取ることができた。

乗り入れ授業

- ・ 中学校の英語科の教師が小学校の英語活動の中でTTの指導を行うことができた。小学校の英語活動と中学校の教科としての英語科のつながりについて、小中の教職員が実際の授業を通して検討することができている。

3 課題

カリキュラム委員会について、府中市全体で行っているカリキュラム編成の内容との整合性などを今後十分検討したうえで、上下中学校区の内容を作成していく必要がある。

児童生徒がお互いを知る機会として、行事等を中心に交流を行ってきたが、今後は教科指導などにおいても研究を進める必要がある。

合同の授業研究において、小中の特性を生かした授業の進め方を研究していく必要がある。